

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	えがお住吉区店		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2026年 1月 28日		2026年 2月 2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者や関係機関と日頃から密に情報共有を行い、必要に応じて迅速に連携を取れる体制が整っており、支援方針の統一や早期対応につなげることで、利用者にとって安心できる支援環境の提供ができてきていること。	利用者や保護者の様子に常に気を配り、違和感やトラブルの兆しが見られた際には、早期の連絡・相談を行っている。必要に応じて相談支援専門員や関係機関とも連携し、迅速かつ適切な対応につなげている。	こちらからの働きかけがなくても、日常の困りごとや不安を気軽に保護者から発信できるよう、定期的な聞き取り以外にや懇談週間の設定や、保護者会など、意見を伝えやすい仕組みづくりを行いたい。
2	・絵カードやスケジュール表、タイムタイマーなどの視覚支援を活用し、見通しを持って行動できる環境を整えていること。 ・児童一人ひとりの特性に合わせた支援を行うことで、落ち着いた活動に取り組める環境づくりができてきていること。	絵カードや活動準備表、タイムタイマーなどの視覚支援を活用し、見通しを持って行動できるよう支援を行っている。利用者一人ひとりの特性や支援内容に応じて、チェック表やスケジュール表を作成し、安心して活動に取り組める環境づくりを行っている。	利用者の成長や年齢層の変化、特性に合わせて都度保護者と認識を共有しつつ支援内容を柔軟に見直し、より分かりやすく、取り組みやすい支援方法へと継続的に改善を図っていききたい。
3	・支援計画やプログラムに基づき、職員間で方針を共有しながら一貫した支援を実施していること ・継続的な支援を行い、児童の成長や変化を丁寧に捉え、安定した支援を提供していること。	支援に関する情報共有を朝礼やカンファレンスで日常的に行い、職員間で支援方針や対応にずれが生じないように統一を図っている。	・法定研修以外の内部研修の実施や、外部研修の奨励など、職員のスキルの向上に向けた取り組みを行っている。 ・非常勤職員を含めた全職員に情報が確実に共有されるよう、ビジネスチャットツールの活用を開始し、連携体制の強化を図っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や地域の児童との交流などが実施できていない。	滞在時間の制限や土日が休業日であることから、イベント時など限定的にしか地域との交流の場を持っていない。	保護者参加型のイベントについては検討中。地域とのかかわりについては、祝日や長期休暇などを利用して交流の場を持っていか検討していく。
2	事業所が一階部分のみだと少し狭く、二階への階段が室外にあるエレベーターは使用できないなどハード面の弱さがある。	賃貸物件で制約があるため。	課題そのものの解決が難しいため、利用者の割り振りなど近隣の店舗との連携を行っている他、事業所内でパーテーションでの仕切りや、1階と2階で児童の特性や活動毎に支援場所を分けるなど利用者が過ごしやすいように工夫を行っている。
3	収納スペースに限りがあり、物が雑多になっている部分がある。	元の物件や別の事業所から譲り受けたものを使用している部分が多くあるため。	長期を見据えて予算を設定し、計画的に収納方法を変えるなど見栄えがよくなるように取り組んでいく。